

東溪中通信

平成29年度
第1号
平成29年4月28日
東溪中学校長室発行

校訓

向学 誠実
剛健 実学

鋭きも 鈍きもともに 捨てがたし
錐と槌とに 使いわけなば

《学校経営方針》

本校では、小規模校の特性を最大限生かした学校経営を行うために、学校経営方針に咸宜園教育の理念でもある「個を生かし、全体をのぼす」を掲げています。

これは、生徒一人ひとりに自己の役割を自覚させ、果たさせていく活動を工夫・実践し、評価していくことにより、生徒の自己存在感や自己有用感を高め、広く社会に役立つとうとする高い「志」へとつなげていくことを意図したものです。

《目指すべき生徒像・学校像》

平成29年度の東溪中学校が、全校生徒57名、教職員14名でスタートしました。入学当初は緊張感で包まれていた1年生でしたが、今では中学校生活にもすっかりと馴染み、日々中学生らしい顔つきになってきています。また、2・3年生も上級生との自覚のもとに新入生の模範となるべく、勉学や部活動に励んでいるところですよ。

学級や生徒会、部活動等において、「自分のよさ(持ち味)を自覚し、それを最大限発揮できる生徒」、また、「友達のよさを認め、それを最大限引き出すことのできる生徒」、そのような生徒たちによる「競い合い、高め合う生徒集団」に育ってくれることを期待しています。



東溪中学校の目指すべき生徒像は、「夢や目標を持ち、スモール・ステップで実現していく生徒」です。そして、目指すべき学校像は、「挑戦する学校」です。生徒と教職員がお互いの夢を語り合い、お互いに刺激し合って夢を実現していく、そんなチャレンジ精神あふれる学校を目指しています。1年後、すべての生徒・教職員が「平成29年度1年間の自分の目標を達成できた。自分の夢実現に向けて一歩近づけた。」と胸を張って言えるように、自己目標達成に向けて努力を重ねていきます。



一学期始業式 式辞より
桜の花のように心を引き締め、凛とした姿勢で新年度をスタートしてほしいと思います。



平成29年度 東溪中学校教職員

校長	梅田由紀夫	社会 技術	3年目	1年学年長	中島 久美	数学 美術1,2	放課後学習指導	2年目
教頭	伊藤 和彦	数学	2年目	1年担任	添田 翔太	社会	バスケットボール部	3年目
養護教諭	上野由香里		2年目	2年学年長 兼任担任	清瀧新太郎	国語	卓球部	2年目
図書司書	福島 尚美	東溪小本務	1年目	2年副担任	江田 恵子	音楽	文化部	3年目
特別支援	松村真理子		4年目	3年学年長	手嶋 貴	保体 技術	野球部	4年目
連絡員	椋本 知佳		1年目	3年担任	糸永 有沙	理科	バレーボール部	1年目
スクール カウンセラー	遠藤 靖男		1年目	3年副担任	井上 由美	英語 美術3	放課後学習指導	1年目

平成29年度学校教育目標 重点目標

学校教育目標 自ら学び、心豊かに たくましく生きる生徒の育成

重点目標	達成指標
1. 読み解く力とあらわす力の育成（確かな学力を身につけた生徒の育成）	①市学力調査（5教科）の基礎・活用の正答率が、全国平均及び市平均を上回る。 ②小集団活動で自分の考えをわかりやすく伝えることができていると答える生徒の比率が75%を上回る。（28年度71%） ③毎日15分以上読書をしている生徒の比率が90%を上回る。
2. 自分や家族・級友・学校・地域のことを自慢できる生徒の育成	①学校や地域のことで自慢できるものがあると答える生徒の比率が80%を上回る。 ②東溪中の生徒は、地域のことに関心を持ち、地域のことをよく学んでいると答える保護者・地域の比率が80%を上回る。
3. よりよい生活・学習習慣を身につけ	①毎日2時間以上、家庭学習に集中して取り組んでいると答える生徒の比率が80%を上回る。（28年度70%） ②毎日7時間以上、睡眠がとれていると答える生徒の比率が90%を上回る。

重点目標	取組主体	重点的取組	取組指標
読み解く力とあらわす力の育成 （確かな学力を身につけた生徒の育成）	学校	語彙力・読解力の育成を目指した学習活動・読書活動の工夫に取り組む。	各教科において、週1回以上、様々な文章・資料を読む機会や、自分の感じたこと・考えたことを簡潔に表現する機会を設定する。
	学校	小集団を活用し、国語力(思考力・判断力・表現力)の向上を図る。	各教科において、単元に3回以上、討論や共同作業を通じた学び合い活動を設定した授業を行う。
	家庭	子供が家庭で読書に取り組む環境づくりを工夫する。	親子で読書をする機会や子供の読書状況を聞いたりする機会を月に2回以上設ける。
自分や家族・級友・学校・地域のことを自慢できる生徒の育成	学校	生徒の地域愛につながる先哲・郷土学習の創造（地域学び塾「三洲峡」）に取り組む。	先哲・郷土にかかわる学習の場を公民館等との連携を図りながら学期に2回以上、学習発表の場を1回以上設ける。
	家庭	生徒の先哲・郷土学習の取り組みを支援・評価する。	学校での先哲・郷土学習、発表会に1学期間に2回以上参加し、取り組みについてのアドバイスや評価を行う。
	地域	学校での先哲・郷土学習に対し、可能な支援を行う。	地域学び塾「三洲峡」へ1学期間に1回以上、可能な形態（参加・支援・評価）で関わる。
よりよい生活・学習習慣を身につけた生徒の育成	学校	学年、学力に応じた家庭学習指導の工夫・充実を図る。	宿題の出し方や指導方法について、お互いの工夫を共有化する研修や情報交換の機会を毎月設定する。（担当：研究主任）
	学校	保護者に対する家庭教育支援の充実を図る。	保護者の家庭教育にかかわる悩みやニーズを調査し、必要な情報を毎月提供する。（学年単位）
	家庭	夜、9時以降はゲームやメール等をしない環境づくりに取り組む。	家庭学習の状況を週1回以上把握し、激励・助言を行う。悩みや相談がある場合は連絡カードを担当に送付する。



◎東溪中学校は大分県青少年赤十字加盟校です。

青少年赤十字は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。